放射能から子どもを守り
１人の被ばく者も出さない

〈日光･放射能から子どもを守る会〉2011.12.28//no.10

地表面セシウム汚染地図
2011.09.05/毎日

子どもにやさしい日光へ！！
生活空間の速やかな表土除去を!!

私たちの生活の場、日光の自然と歴史遺産のふるさとが放射能汚染されています。子どもたちの生活空間、保育所、幼稚園、小中高校の園庭、校庭が放射能汚染で放置され続け、ここで遊び、まなんでいます。なぜなら、日光市は、1マイクロシーベルト以下で「子どもたちが校庭を利用することは問題ない」、「原発安全神話」と同じように、「安全」「風評被害」との姿勢です。子どもたちは、大人より2～3倍放射能に敏感なことから、政府の打ち出した0．23μシーベルト除染基準を大幅に下回る環境が必要です。日光では、この基準を上回る園庭、校庭が数多くあります。1日でも早い園庭、校庭の表土除去が求められます。また、口から入る「内部被ばく」は、より一層危険です。給食は放射線ゼロにすべきです。日光市は、1日でも早く、子どもが放射能の影響でガンやさまざまな疾病が出るのを避けなれければなりません。一人ひとりが声を上げて、日光市の姿勢を改めさせることが子どもたちを守ることになります。

❑日光市の１μSvの根拠は、福島県の学校で国の除染支援対象となった基準とは！

❖放射能汚染・被ばくの実情・恐ろしさに声を上げて２カ月❖

10月28日、早朝、JR下野大沢駅でチラシ配布を始め、毎週続けて2カ月になります。私は、子どものころから裏山の日光連山に入り、自然の大きさ素晴らしさを体験してきました。そして、大震災の自然のすさまじい巨大な力に驚きました。さらに、人類自ら自然を破壊し、人類を滅亡に導きかねない原発崩壊、放射能汚染です。5月21日（下野新聞）、日光市の子どもたちへ生活空間まで広がった放射能汚染の数値に驚き、危ないと身震いしました。〈参照 4P.〉

しかし、日光市は「安全宣言」「風評被害」「誘客」を叫び、子どもたちへの放射能被ばくの心配どころか、他人事のようです。そして、時だけが過ぎていきます。10月27日、下野新聞は、日光市の放射能汚染地図〈参照 4P.〉を大見出しで「9割は0．40マイクロシーベルト未満」と掲載しました。私は、日光市に真意を尋ねると、「安心して生活できる」と言います。私は、この姿勢に黙っていられず、「放射能汚染で安心できますか」と、チラシ配布はじめました。

給食は一食ごと測定し放射能 ZERO の安心
１日でも早く以前の放射線量に戻そう
政府･県･日光市の積極的な除染対応を望む

❑ 政府の放射能除染基準//毎時0.23μSv ❑
❑栃木県原発崩壊前//0.030～0.067μSv/h❑

◆ひとこと電話で声を上げよう！

放射能から子どもを守るため
園庭、校庭の表土を除去してください
給食は放射性物質のない食材を使って

❑保育園･幼稚園//子育て支援課　0288-21-5186
❑小中学校//学校教育課　0288-21-5181

日光市放射能汚染分布

2011.10.03-12 調査/日光市
測定地上 50cm
マイクロシーベルト/以上～未満

0.1 未満	1ヶ所	0.2%
0.1-0.2	155ヶ所	28.8%
0.2-0.3	187ヶ所	34.8%
0.3-0.4	152ヶ所	28.3%
0.4-0.5	30ヶ所	5.6%
0.5-0.6	10ヶ所	1.9%
0.6-0.7	2ヶ所	0.4%
0.7-0.8	1ヶ所	0.2%

日光市

県立学校

調査地点	測定値	調査地点	測定値
日光明峰高	0.41	今市高	0.30
今市特別支援	0.50	今市工業高	0.35

公立幼小中学校

調査地点	測定値	調査地点	測定値
三依小	0.32	鬼怒川小	0.55
下原小	0.54	栗山小	0.31
湯西川小	0.16	湯西川中	0.17
三依中	0.31	藤原中	0.55
栗山中	0.33	小来川小	0.32
中宮祠小	0.25	安良沢小	0.38
清滝小	0.33	足尾小	0.34
小来川中	0.30	中宮祠中	0.26
日光中	0.42	足尾中	0.43
今市第三小	0.38	今市小	0.37
東原中	0.34	大沢小	0.22
南原小	0.30	落合西小	0.31
猪倉小	0.19	落合東小	0.17
大沢中	0.23	落合中	0.23
野口小	0.56	日光小	0.36
所野小	0.49	今市第二小	0.41
東中	0.45	大室小	0.30
小百小	0.71	大桑小	0.65
轟小	0.54	小林小	0.37
今市中	0.40	豊岡中	0.59
小林中	0.37		

私立幼稚園

調査地点	測定値	調査地点	測定値
きぬ川幼	0.53	二荒山神社附属ふたら幼	0.28
清滝幼	0.44	今市中央幼	0.36
聖ヨゼフ幼	0.42	今市幼	0.43
長畑幼	0.28	輪王寺附属日光幼	0.38
聖アントニオ幼	0.42		

保育所

調査地点	測定値	調査地点	測定値
鬼怒川保	0.53	下原保	0.57
高徳保	0.61	栗山中央保	0.41
藤原保	0.39	三依保	0.33
湯西川保	0.20	近代ビル管理社たんぽぽ託児所	0.56
足尾保	0.37	清滝保	0.25
小来川保	0.31	並木保	0.31
原町みどり保	0.31	杉の子保	0.37
宇都宮ヤクルト販売杉並木託児所	0.34	大沢保	0.24
さかえ保	0.28	宝珠保	0.31
明神保	0.24	きらきら保	0.19
所野保	0.51	日光保	0.42
せせらぎ保	0.42	しばやま保	0.38
芹沼保	0.48	宇都宮ヤクルト販売鬼怒川託児所	0.58

栃木県、県教育委員会測定
2011.05-13-19 小学校、幼稚園、保育所は、地上 50cm、中高校は 1m の校庭、園庭の空間放射線量を測定。〈05.21/下野〉

〈日光･放射能から子どもを守る会〉tel･0288-26-0130//E-mail nairamdal-1871@dream.jp

❖チラシ配布から見えてきたもの❖

子どもたちの健康疾病
チェルノブイリ原発事故による長期低放射線被曝

反復性の呼吸器･消化器疾患、内分泌疾患、免疫力の低下、白内障、がん、先天異常、心臓血管系の疾病による胸痛（高血圧、低血圧、心電図異常など）、脳神経系の疾患、糖尿病、疲れやすい、周囲に無関心、加齢の促進、一人で2つ以上の病気を持つ子どもが多い。健康な子どもの割合が20%程度になる。

私は、チラシ配布を始めて『受け取ってくれるかな』『読んでくれるかな』『怒鳴られるかな』と不安でした。しかし、いつからか、「おはようございます。読んでください」と渡すと、「おはようございます」「ごくろうさん」という声が返ってきて緊張感が取れます。そして、話しかけてくれる人、コーヒーをくれたおばさん、協力しますと言ってくれた女性･･･紙面には、人々の声も掲載しました。教育委員会へ「校庭の表土除去」「給食」の電話呼びかけでは、数人から連絡がありました。多くの人が放射能を心配していて自分ひとりではないんだと感じました。そして、塩谷や宇都宮の「放射能から子どもを守る会」、旧友たちの協力がありました。私は放射能の恐ろしさを知ろうと講演会に行き、知人、友人から資料を送ってもらい、まなべばまなぶほど、放射能の低レベル長期間被ばくで子どもたちへの影響が大きいことや、政府、県、市、マスコミの新たな「放射能安全神話」の大きな流れが見えてきました。

❖横浜のお母さん、日光への修学旅行への不安の叫び！！❖

子どもの放射能被ばくを心配したお母さんたち、「横浜市の修学旅行を考える会」は、11月下旬、日光市、教育委員会、観光協会宛に、修学旅行で訪れる場所の放射線測定と公開、滞在の食事の安全性を求めました。市の回答は、「測定しています」「公表しています」と、横浜のお母さん方の心配にこたえる姿勢はなく、「･･**日光市内の小中学生をはじめ･･･私たちも、日常の生活を、安全に送りながら屋外においても通常通り活動しています。また、観光客の方も数多く訪れて頂いています**」と、安全をアピールです。崩壊した「原発の安全神話」から、今度は「**放射能安全神話**」に模様替えです。

その後、神奈川県内では、相模原市の市民グループをはじめとして、5市から各市の教育委員会に『日光は放射性物質が多く堆積。児童の健康を考慮してほしい』と日光への修学旅行の変更要望の署名が提出されました。

❖低放射線長期被ばくで、さまざまな障害が発症//日光の話です❖

当初、放射能は危険と知らされ、日光でマスクをした人が目立ちました。しかし、春のすがすがしい天気と、日光市は「安全宣言」「風評被害」と叫び続け、放射能の恐ろしさは、福島原発近くの町だけ？問題になったかのようです。放射線は目に見えませんが、市長が何度「安全」と言おうと、その数値（5月、10月測定値4p.参照）は、消えません。

さて、政府をはじめ、さまざまな専門家が放射能について数字を出し「安全だ」と言います。何が正しいか分からなくなってきます。しかし、基本があります。

＊国際的に、放射能は何ミリ、何マイクロシーベルト以下なら安全という基準はないのが常識です。X線は危険で病院は厳重に管理し、X線技師も専門知識が必要です。

＊妊婦、幼児などは、成人の約10倍、子どもたち、女の子は、2～3倍も放射能に敏感です。ですから、最大限、以前の条件に近づける努力が必要です。内部被ばくにつながる食物は、放射性物質ゼロにすべきです。

＊チェルノブイリ原発事故の放射能被ばくの影響は、25年たった今でも子どもたちにさまざまな症状が現れ、それを教訓にする姿勢が大事です。長期低放射線被ばくの紹介は、日光市市議の研修で講演をした崎山さんが話されています。(左参照)日光もその危険性が充分考えられます。1年後、5年後、数10年後に発症する可能性があります。

❖　❑　❖

日光は「安全宣言」「風評被害」を叫んでも、政府の0.23μSv以上の除染対象地域

日光市全体の放射能汚染の状況は、5月に栃木県と県教育委員会の測定した保育所、幼稚園、小中学校、高等学校の調査結果【2011.05.21/下野新聞】、日光市が10月(10.03-12)に、1kmメッシュで測定538カ所の結果【2011.10.27/下野新聞】が一目でわかります。これらの放射線量汚染は、大変深刻なレベルです（参照4p.）

放射能除染に取り組む自治体の状況（首都圏）調査/12月1日現在（東京11月末）

❑日光市は、なんと1.0μSvの高レベルの基準　〈東京新聞2011.12.04/により作成･抜粋〉

0.19μSv 国際放射線防護委員会（ICRP）の勧告		0.23μSv 放射性物質の汚染に関する国の基本方針		1.0μSv 文科省の放射線測定に関するガイドライン	
基　準	0.19	0.23	0.24-0.59	1.0	未定
栃木県	-	足利市	0.3　那須塩原市	日光･宇都宮･真岡	その他
茨城県	1	16	2	6	その他
群馬県	-	10	-	-	その他
埼玉県	7	19	4*	4	その他
千葉県	-	14**	6	1	その他
神奈川県	5	9	2	1****	その他
東京都	2**	19	14	6	その他

❖数値の単位マイクロシーベルト(μSv)/*0.246/**0.223/**0.20/****1.05//各基準のなかでも自治体により地上1cm、50cm、1mなど、いろいろあります。詳しくは、新聞をご覧ください。

放射線測定します〈無料//日時相談〉0288-26-0130
自宅、公園など　調査してほしいところ測定します。相談ください !!